

持続可能な地域と地球のための家づくり

# 株式会社四季工房 環境社会報告書2010

Shiki Kobo Environmental Social Report 2010

四季  
工房

Shiki Kobo

2011年9月第1版発行



## 不況の時代こそ 住宅の付加価値を高めるための 努力を惜しまない。

より質の高い住宅を追求することは、景気の動向によって左右されるべきでないことは言うまでもありません。むしろ、こういう時期だからこそ地道により良い住宅としての「存在価値」を高めるための取り組みをしておくことが重要だと考えています。それは、四季工房がたえまなく実践してきたパッシブソーラーの採用、国産材への切り替え、大工職人の手仕事の特化といった、思い切った転換の歴史が教えてくれたことです。つまりは、“常識的な家づくり”にいちいち疑問を抱いて、「家づくりはやはりこうあるべきでは」と手探りで理想を追求してきた結果、地域職人の仕事の復権、住む人の健康、そして地球環境にもやさしい……というように、時代が次々と付加価値を付けてくれたことです。効率ばかりでなく理想を追求することが、住宅をつくることにおいて極めて重要なことであることは、後からわかったことなのです。不況の時代にこそ価値のイノベーションが必要だというのはこのためです。

しかし、価値を追い求めるのはたやすいことではありません。たとえばボンドで固めた集成材をプレカット加工し、ベニヤを張り合わせるやり方をやめて、十分な量の木材を使い大工の手加工で建てることは、効率を求める住宅とはまったく逆の闘いとなります。これは国産材使用100%で、大工の手仕事の家をつくりたいということが原点にありました。機械的作業を徐々に人の手に戻していく、あるいは自然の作用に任せていくこと。高度成長の時代には何かと非効率なやり方だと言われたことが、少子高齢化で住宅着工が減少する時代には、むしろまっとうなやり方になってきたと確信しています。それどころか、たとえば効率を追求した結果生まれた大量のプレカット施設のほうが無用の長物になりつつあるのではと思えてくるのです。

これらの複合的価値を持つ住宅の時間軸を将来に向けてみれば、「長寿命の住宅」と「高い環境性能」が得られると思うのです。これは私どもにとって興味深い発見です。いち工務店の取り組みが、住まい手の家族を数代にわたって支えることができる、つまり「価値」や「住文化」の一翼を担っているのだという自覚です。

ここ1～2年、住宅業界にも吹き荒れるデフレの嵐の中であって、価格破壊住宅を求める動きの対極に、住宅としての究極の付加価値である「長寿命」を求める人びとや社会の要請が強まっていることも確かです。四季工房では2010年、長期優良住宅への本格的取り組みを始めましたが、それは、これまでの取り組みの基盤の上に築きつつある住宅の理想形であります。その基礎的取り組みを宣言文として表したのが、2009年に発表した、「新・環境社会宣言」(P.5)と「新・住まいのエコ」(P.19)です。私どもの理念を家づくりという実践の場に移していくために必要な言葉・技術・心を明確にし、自らの指針とするためのものでもあります。

四季工房が、日本社会にとってより良い住宅づくりの取り組みの手を緩めないのは、支持してくれるお客さまと日本の住文化をつくっていくという思いがあるからです。そして、四季工房は次の時代につながる付加価値をつくり続けていきます。

代表取締役

野崎 進



## 目次

# 株式会社四季工房 環境社会報告書2010

Shiki Kobo Environmental Social Report 2010

トップコミットメント…… 2

## 四季工房のビジョン…… 4

新・環境社会宣言…… 5

宣言 **1** LCCO<sub>2</sub> 50%以上の削減を達成…… 6

宣言 **2** 「森林認証材」を中心とした国産材100%の家づくりの深化…… 8

宣言 **3** 真に価値のある「長期優良住宅」をつくる…… 10

宣言 **4** 職人と地域の資源を生かして「循環型社会」の構築…… 12

宣言 **5** 伝統工法の家づくりを守り後世に継承…… 12

座談会 **住まい手と語る「愛着の持てる住まい」とは……**

変化していく家族をおおらかに受け止めてくれる家にずっと住みたい…… 14

## 環境への取り組み

四季工房の環境取り組みの考え方…… 18

新・住まいのエコ…… 19

新・住まいのエコ **1** 「エアパス工法」を軸にLCCO<sub>2</sub> 50%以上削減できる住宅を建築…… 20

新・住まいのエコ **2** 国産材の適期伐採、天然乾燥で輸送と乾燥エネルギーを削減…… 22

新・住まいのエコ **3** 「100万本の植林活動」をすすめ、「伐ったら植える」循環をつくる…… 24

新・住まいのエコ **4** 「広がりの間取り」、「生涯メンテナンス」を通して長寿命住宅をつくる…… 26

新・住まいのエコ **5** バイオマスエネルギー活用の薪ストーブの設置を促進…… 28

事業所内の環境保全活動…… 29

物質・エネルギーの使用量(マテリアル・バランス)…… 30

環境目標と実績…… 31

## 社会への取り組み

援農、野菜づくりの開始…… 32

コミュニケーション活動…… 34

NPO法人「未来の森づくり」による海外支援…… 36

会社概要…… 37

第三者意見書…… 38

四季工房の歩み…… 39



参考にしたガイドライン：環境報告ガイドライン(2007年版)  
対象期間：2009年1月～2010年6月(活動内容に関して、一部期間外のものも記載しています)  
対象範囲：全事業所(子会社含む)  
次回発行予定日：2012年6月

編集方針：本報告書は、持続可能な社会へ向けて、地域主義工務店として四季工房が取り組む環境配慮活動と社会とのかかわりを記載したものです。本報告書では、2009年に発表した「新・環境社会宣言」および「新・住まいのエコ」に沿って、主としてそれらの具体的な取り組みを報告する構成としました。また、信頼性を向上させ、外部の方とのコミュニケーションを深めるという観点から、本報告書に関しての第三者意見書をいただき掲載しています。

お問い合わせ先：株式会社四季工房 環境マネジメント室  
〒963-0115 福島県郡山市南二丁目84番地  
TEL.024-937-6351 FAX.024-937-6341  
E-mail: eco@sikikobo.co.jp